

ビニールと製材と

だが、行手に待った大飛躍

○…昨年以來、着々と建設を行ってきた矢崎始め…
 ○…の十萬坪の広地―裾野工場がいよいよ活動…
 ○…を開始しました。みんなの期待を集中させた…
 ○…裾野とは、どんなところか？…裾野のすべ…
 ○…まずはニュースの眼にうつった「裾野のすべ…
 ○…て」をご紹介しましょう。

裾野工場初便り

○…「いい眺めでしょう。富の広大な裾野工場がある。士もあまり目の前だと圧迫を感ずるが、この裾野くらいになると、ちょうど見よい。ホキ」といわれる厚く堅い熔岩ドホドというところがね、何ともいえませんよ」
 真白な富士を北々西に望んで裾野工場建設委員長の村田秘書役はニコリ笑った。
 ○…御殿場線岩波の街を抜ける



源平の歴史に名高い黄瀬川を渡ると、すぐの台地に十萬坪

の広大な裾野工場がある。この辺は表土がせいぜい50センチ、その下には「富士まき」といわれる厚く堅い熔岩層がある。建設はもっぱら熔岩と闘ったようなものだ。熔岩の中を富士の雪代からくる水脈が通っている。この水脈はタテ長で深く、三島辺ではハバ広く浅くなっている。だから井戸掘りも電探でドンピシャリと当てないと駄目なんです。とにかく整地費がかかりました。まず道路から作っていくんですからネ」
 と建設の苦労を語る村田さんだが、事務所の窓からは、山合いに点々とちらばる岩波の赤、白、緑の屋根や樹々のかたまりが見えて、まことに牧歌的風景。矢崎工場群中、唯一の環境と云える。

何処にもムダはない

○…裾野十萬坪の中で現在、整地完了が一万五千五百坪。ビニール、製材の両工場、貯木場、屑線倉庫、事務所がほぼ完成している。

屑線処理のビニール工場はすでに稼働。製材工場は機械を据付けながら受電待ち、貯木場は最後の仕上げという段階だ。

○…今の裾野は主体的な工場ではなく、沼津の補助部門的な役割を受けている。ビニール工場も沼津から出たロス



ニールはテープやコンパウンドになる。クズみたいな値段のものも立派な品物に再生されるわけだ」
 つまり捨てるものは何にもないということだ。
 ○…捨てるというのと、製材場から出るノコギリ屑も、チップと集めて売られる。又、パタ材もチップ（材木のあられ切りみたいなもの。パルプ原料になる）にして売られる。何処にもムダがない。前が貯木場、皮をむいて置いてある巨木が、すぐ工場へ引き入れられ、場内を端まで行く間に適当な寸法に切断され、その間に削れたノコギリ屑、チップなどが分離して天井へ押し上げられ集まっていく。
 やがて受取りのトラックがその真下へ入ると天井からチップが落ちてきて降り、全然積み上げの必要もない。機能的・超近代的と自慢されるのも当然だ。

すぐ脇に弾丸道路 きびしい数量管理

○…稼働中のビニール工場でカッティングの西川さんと簡単な立話した彼女は昨秋入社した新人。―ウチはどこ？

「裾野町の御宿という所。私ら九人が通っています」
 「休み時間は何してる？」「日だまりに集まってベチャクチャおしゃべり。ほんとは何か運動したいんですが、寒くてね」
 寒い。吹き渡る風は水のように。太陽が出て

これは村田さん。村田さんのいま一番の苦心は「数量管理」のむづかしさだ。一層であるが故に中々管理しにくい、みんな協力と呼びかけ、管理の思想徹底を行っている。出荷受入の検査をキチンとつかむ。今やっている解体に0.2パーセントのロスです。中々の成績でしよう。話の間にも、色々な指示をテキパキ下す。建設途上の忙しい時期だが、その村田さんを補って山本、田中の両工場長も連日「何デモ」の大活躍らしい。

○…十萬坪に百五十人の農家から土地を提供してもらったが、裾野唯一の食料係広瀬光枝さん（深良新田居住）の一人。ご主人の広瀬大士さんは前から沼津の守衛勤務に就いたので、すぐ裾野へ移り



裾野だより写真説明

右上 村田建設委員長。右 岩波の街をはるかに望む。左手前が製材工場、右手前が倉庫、事務所と続く。



右下 ビニール工場の乙女。左中 このロス電線の山が解体されて、新しい生命と価値をもつてよみがえる。



左下 次々とビニール・テープが乙女たちの手で生産され流れていく。



土足長登

男子たちの苦勞もさぞやだ。「早く一人前になって本採用にしてもらおうとガンバってます」と西川さんは結んでくれた。現在人員52名、うち経験者は五人ほど。後は去年秋に入った新人たちばかり。

「本当によく働いてくれる。それというも、みな矢崎を信用してくれるからです」と

今では仲良くオシドリ通動。「それにしても矢崎が裾野まで伸びてくるとは思わなかった」と光枝さんはオドロキでた。裾野はまだ三度の食事を沼津から運んでくる住人で腕の振いようもないが「炊事が始まるまで一度各食堂を見学したいもの」と望む。

○…夕方、十萬坪の周りを村田さんに案内して頂く。原野あり山林あり斜面あり、雄大な景観だ。村田さんは云う。「もう東京はゴメンだ。住む所ではなく仕事の場ですネ。車が走れないほどの混雑ぶりしかし、ここは空気はうまいし、しかも近代的工場地としての気象条件も完ぺきです。夏も冬もほどよく乾燥して夏は南風が吹くが汗はかかない。いい場所です」